

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
施 設 名	仙台市青年文化センター	
助成対象活動名	公演事業、人材養成事業	
内定額（総額）	14,823	(千円)
公 演 事 業	12,601	(千円)
人材養成事業	2,222	(千円)
普及啓発事業	-	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	名曲のちから『オーケストラ・スタンダード』 (全2回)	2019年 1月30日、2月20日	仙台フィルハーモニー管弦楽団 指揮：太田弦、山下一史 ソリスト：郷古廉、津田裕也	目標値	1,800
		コンサートホール		実績値	1,508
2	おとなとこどものための クラシック入門『仙台 フィルのクリスマスコン サート』	2018年12月25日	指揮：角田鋼亮 仙台フィルハーモニー管弦楽団	目標値	600
		コンサートホール		実績値	560
3	熊谷和徳タップダンス公 演	2018年12月15日	タップダンサー：熊谷和徳 演奏：Alex Blake、林正樹 仙台市立五橋中学校吹奏楽部	目標値	682
		シアターホール		実績値	716
4	Super Theater 小池博史 ブリッジプロジェクト 『新・伝統舞踊劇 幻祭 前夜2018～マハーバーラ タより』	2018年9月16日	作・演出：小池博史 演奏：下町兄妹、大城貴幸 出演：小谷野哲郎、張春祥、 川満香多、土屋雄太郎、ほか	目標値	353
		シアターホール		実績値	367
5	仙台市青年文化センター &仙台文学館企画事業 こまつ座公演「父と暮ら せば」	2018年7月14日	作：井上ひさし 演出：鶴山仁 出演：山崎一、伊勢佳世	目標値	556
		シアターホール		実績値	387
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	3,991
				実績値	3,538

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ダンスプロジェクト	2018年10月～2019年3月	講師等：マニシア、野中香織、山田うん、渋谷裕子、千葉里佳、飯名尚人、木村浩二、八重樫榮吉、伊藤み弥	目標値	120
		アトリエ、練習室、他		実績値	72
2	ミュージカルプロジェクト	2018年9月～2019年3月	総合監修：茅根利安 作・演出：渡部妙子 振付・指導：朝日雅宏 歌唱指導：佐藤一成	目標値	60
		交流ホール、練習室、他		実績値	58
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	180
				実績値	130

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

#### <公演事業>

複数の事業を実施した中で、出演アーティストと協働し企画したタップダンス公演については、想定していた共演者同士のスケジュール調整による変更に加え、変更共演者の意向による会場変更、招聘経費を含めた事業経費と集客上の妥当性を鑑みて、当初予定していたコンサートホールからシアターホールでの1回公演に変更となりました。この他、一部の事業においては予算縮小のため公演回数が減となりました。

このため入場者・参加者の合計のべ人数は当初目標を下回ったものの、入場率で目標を上回った公演が複数あり、また内容面では、参加者・鑑賞者に実演芸術ならではの「一度限り」の感動をもたらす高質の企画を多数実施することができたと考えております。

#### <人材養成事業>

平成28年度から29年度の2か年で制作したミュージカル公演からのリ・スタートとなったミュージカルプロジェクトについては、年度末の成果発表を次年度の公演へと延期し、レッスンに特化する変更となりました。

また、新規事業としてダンスプロジェクトのプログラムを複数実施いたしました。が、「想像/想像プログラム」については、予算縮小にともない実施内容を見直すこととなりました。

上記の変更はあったものの、市民の自発的な表現活動に対する、さらなるバックアップを求めるニーズの高さという地域特性が改めて確認でき、当初からの狙いに沿った事業展開を行うことができました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

地域の核となる劇場・音楽堂としての機能を当施設が維持し、新たな世代・市民層に日常的な参加や鑑賞を働きかけていくため、そしてその原動力としての有効な事業を十分に編成していくために、当事業を実施いたしました。

文化的・社会的意義については評価指標としたアンケート及び評価委員会での評価結果を踏まえ、十分に認められたと考えます。今後の課題としては、地域のニーズをより深く把握するため、新たな調査方法などについて検討していく必要があると考えております。

また経済的意義については、来場者アンケートでは回答者の25%が市外の方であり、広域からの来訪による経済効果が認められるほか、出演者・参加者間のネットワーク形成が進んだことにより、今後の文化芸術事業の活性化や交流人口の拡大につながったものと認識しております。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

#### <公演事業>

全体目標「企画性の高い公演の継続」「質の高い作品上演」「低料金での提供」については、ほぼ目標を達成できたと考えています。

評価指標としたアンケートについては、「内容に対する大変満足&満足」（目標（以下同）95%→結果（以下同）90%）、「入場料・参加料が妥当&安い」（95%→89%）、音楽分野での「初めて鑑賞」（30%→5%）、舞台公演での「初めて鑑賞」（30%→13%）、「魅力的&企画性高い」（70%→85%）、舞台公演での「また観たい」（80%→95%）となりました。

特に音楽分野での鑑賞者新規開拓に課題があり、一方で企画内容の評価や次回以降の鑑賞意欲の開発には想定以上の成果があったと考えています。

同じく評価指標とした新設の評価委員会では「総合A評価」（70%→68%）となり、目標をわずかに下回る結果となりました。

実数値の目標を上回った主な項目としては、入場率でオーケストラ・スタンダード（75%→93%）、熊谷和徳タップダンス公演（85%→90%）、収益率でオーケストラ・スタンダード（59%→67%）、小池博史B.P.公演（65%→73%）があり、一方で下回った項目ではこまつ座公演の入場率（99%→66%）などが挙げられます。

#### <人材育成事業>

全体目標「若年層の参加」「レベル・満足度が高い内容」「今後の活動意欲向上」については、同じくほぼ目標を達成できたと考えています。

評価指標としたアンケートでは「プログラム内容に対する大変満足&満足」が（100%→92%）、「今後の活動に役立つ」が（80%→50%）、「知識の広がり・深まり」が（80%→60%）、「今後本格的に取り組みたい」が（25%→21%）、「20歳以下の参加者割合」が（50%→44%）となり、いずれも目標数値を上回るには至りませんでした。本格的に取り組む意欲の啓発には一定の成果が把握できました。

評価委員会では「総合A評価」（80%→75%）で目標をやや下回りましたが、「講師人選が良い」（80%→100%）で目標を上回りました。

ダンスプロジェクトの参加者数については、実施期間や定員数の変更などの要因もあり、127人→72人となりました。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業においては、タップダンス公演の協働企画者であるアーティスト本人との諸々の確認業務が海外とのやり取りであったこともあり、労を要し日程が切迫したほかは、全事業において効率よいスケジュールでの制作を進めることができました。事業の開催間隔や時期についても変更なく実施することができました。

事業費については、当初計画の予算に対し、決算が収入ベースで13%の減、支出ベースで15%の減となりました。

人材養成事業においては、事業規模の見直しに伴い実施期間の短縮と対象定員の変更が生じ、事業費は収入25%減、支出ベースで18%減となりました。協働企画制作の市民団体との打ち合わせを効率化するなどの工夫を行い、全体としてはおおむね想定の範囲で実施することができました。

当財団の職員が、大きな制作会社を通すことなく、各部門で直接業務を調整・発注することも含め、経費の抑制を図ることに努めました。

小池博史ブリッジプロジェクト「新・伝統舞踊劇 幻祭前夜2018 ～マハーバーラタより」公演について他都市会館等と連携することで経費を按分することができました。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

限られた予算や時間、人的資源等の制約下において、公演事業アンケートにおける「企画性の高さ」の85%回答など一連の評価指標の結果を踏まえ、ある程度の成果が達成できたと考えています。

公演事業においては、クラシック音楽専用の「コンサートホール」で、仙台のプロ・オーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団の共演者ソリストに、それぞれ国内外で活躍する仙台市出身のピアニストと宮城県多賀城市出身のヴァイオリニストを迎えてのコンサートを行ったことで、市民のニーズに応えるとともに質の良い公演を実施でき、また地元出身ソリストの活躍の場を提供できたと考えます。

また、演劇や舞踊公演に適した「シアターホール」で実施したタップダンス公演では、仙台市出身でニューヨークを拠点に活躍するタップダンサーと協働で企画を進め、ジャズベーシストの巨匠といわれるニューヨーク在住の演奏家を単独で招聘して公演を行いました。加えて仙台市内中学校の吹奏楽部との共演が実現したことで、中学生にとっても貴重な機会となりました。

人材養成事業のミュージカルプロジェクトでは、仙台及び宮城県名取市で活躍するアーティストをメインスタッフ及び指導者に据えて、仙台を舞台としたオリジナル市民参加ミュージカル公演に向けて年間を通してレッスンを行いました（令和元年12月公演予定）。

また、ダンスプロジェクトのプログラムでは、テクニカル面ではない作品創造そのもののトレーニングを行うこととし、“仙台”という地域・郷土の歴史や人材を活用した内容とすることによって、“仙台ならではの”創造性を強化できたと認識しております。

一方で、東北の中枢都市である仙台の拠点性を活かした集客や事業展開など様々な伸びしろがあり、さらに有効な企画立案に鋭意努めていく必要があると認識しています。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

仙台市の実演芸術分野は、さまざまなフェスティバルやコンクールの開催、プロ・オーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動、数多くの市民文化団体の定期的な活動や発表会など、基盤となる活動やイベントが日常の中で安定的に存在しています。また、当会館を会場として開催される国際音楽コンクールの300人以上に及ぶボランティアスタッフの活動は全国的にも知られ、仙台クラシックフェスティバルでも同様に活躍しており、主催公演等においてもそのスキルが活かされています。

一方で劇場・音楽堂側が地域の現状で不足していると考えられる実演芸術へのアクセス・チャンス、例えばダンス分野での敷居の低いワークショップや、定期演奏会は敷居が高いと感じている層に向けた仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会、特定の分野における世界レベルの舞台公演制作などを、広域劇場連携も取り入れて実現させていく取り組みは、地域の文化芸術の発展のために重要なことであると考えます。そのような意味で、当事業の実施には成果が認められると考えます。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当施設は文化芸術振興を専門とする財団が管理運営を行っておりますが、当財団全体では劇場・音楽堂の運営・提供にとどまらず、ミュージアム系施設や演劇練習施設の運営、市民文化活動への支援・助成・協力、文化芸術のさまざまな分野における主催事業などを幅広く実施しています。

職員のキャリア・アップの過程においては、複数の業務を経験することから養われる総合的な力と、適性に応じてひとつの業務を長期間経験することで深められる専門的な力、双方のバランスを踏まえて職員の育成を図っています。

他都市会館との連携事業等を媒介して構築される文化施設間のネットワークは、人材育成や組織力の維持・向上といった観点からも極めて重要であり、今後も力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

一連の事業実施において、職員が様々なアーティスト、スタッフや市民の方々と協働する機会を持つことができ、特に小池博史ブリッジプロジェクト「新・伝統舞踊劇 幻祭前夜2018 ～マハーバーラタより」公演では、他都市会館等と連携・協働しながら制作を進めることができました。今後の事業展開において、今回構築できたネットワークや、取り入れることができたノウハウが大きな力になると実感しています。